



群馬県太田市立綿打小学校でのレッスン風景

2009年のアジア民族舞踊文化交流

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直

今年は全世界が経済不況に見舞われました。各種の文化活動がその影響を受けざるを得ず隔年に行なわれていた黛民族舞踊団の中国訪問を中止せざるを得なくなりました。しかしその代わりにいくつかの小規模な民族舞踊交流の催しに参加して交流の促進に寄与することが出来ることとなりました。

6月にはスロバキアのコシツェ市を訪問してそこでのフォルクス・フェストに参加出演して日本の民族舞踊を紹介します。

7月には中国雲南省の玉溪市花灯劇団と韓国のテジョン市立舞踊団を東京に招聘して黛民族舞踊団も加わってアジア民族舞踊の相互交流を行います。

経済不況のなかにあっても、大切なのは人の心です。舞踊を愛する人の心のつながりは、状況を越えて拡がり、つながって、舞踊を盛り上げて行くでありましょう。

民族舞踊を子供たちへ ―群馬県太田市立綿打小学校―

2008年7月16日



群馬県太田市立綿打小学校にて

群馬県太田市立綿打小学校の校長川島芳子先生、教諭大川浩子先生のお世話により、2007年のアジア民族交流会で、中国・韓国の舞踊家に教わったそれぞれの国の舞踊をその年の秋の運動会で発表したところ大変好評を得た。このことがきっかけとなり、2008年には日本の民族舞踊を黛民族舞踊団が3年生86人に教えることになった。

2008年7月16日、浅草発7時40分の特急りょうもう号に乗り、太田駅からタクシーで綿打小学校に着いて10時より子供たちを指導した。当日の黛民族舞踊団のメンバーは黛琉美、黛莉香、平出圭、五月女舞穂、田母神裕子、森田明美、小島千佳子、藤原明人の8名、「はねこ踊り」を指導する。

最初とはまどっていた子供たちも壇上の踊り手の模範演技を見たり、グループに分かれて踊りの手順をひとつひとつ学ぶことによりしだいに踊りに慣れ親しみ、体得していくようだった。この年の秋の運動会では、この「はねこ踊り」を基礎として大川先生が振り付けをした踊りが3年生により踊られた。

黛民族舞踊団も今回の経験を生かして、今後も各地の小学校や公民館などを訪問し、日本の民族舞踊の普及に力を注いで行きたいと考えている。

はねこ踊り 解説

東北地方、現在の宮城県桃生町に伝わる「はねこ踊り」は、江戸時代（約200年～300年前）、度々の凶作に見舞われ悲惨な生活を強いられた村人達が、挫けることなく村の守護神八幡大菩薩を信じ、豊年を祈願し続けたといわれる。

やがて豊年が巡ってきたとき村人達は感謝を込めて八幡神社に神楽を奉納し、併せて田の神をも勧請し、田植えから刈り取りまで田作りの動きを表現したのが、この踊りの始まりといわれている。

「はねこ」とはこの地方の方言で「跳ねる=跳ぶ」「こ=人」という意味で、跳ぶ動作が多いことからこのように名づけられた。「はねこだ はねこだ はねこだよ」とハヤシながら踊られる。

'08みなと区民まつりに参加

世界舞踊祭で活躍した舞踊団が選ばれ、2008年10月11日（土）に港区の'08みなと区民まつりに出演した。この日は午前中雨が降り、野外の舞台が心配されていたが、お昼ころから陽の光が出て舞台を始めることができ、待っていたお客様を喜ばせた。

- 黛民族舞踊団
1. 伊予万才
 2. かつぼれ
 3. 花笠踊り

2日目は朝から晴天。港区役所前の広場には産地直送の物産が並び、活気のある雰囲気の中で行なわれた。



伊予万才

桜井工業 年賀パーティーにて公演

【邦楽と踊りの共演】 2009年1月7日、桜井工業のパーティーに黛民族舞踊団が招待され、邦楽の出演後舞踊団の黛琉美、平出圭、五月女舞穂、宇野あかりの4名が「深川」「伊予万才」を披露した。

'08 みなと区民まつり -MINATO CITIZENS' FESTIVAL-



花笠踊り

東京藝術大学にて公演

「上野タウンアートミュージアム（UTM）」は東京藝術大学美術学部と台東区が文化的街づくりの提案と企画により台東区型文化的景観形成を目指す事業であり、そのUTMのイベントの中の「サステイナブルアート展」UTMレセプションに2008年10月18日、黛民族舞踊団が招待され、宇野あかり、伊藤みつ子、田母神裕子の3名が「祝い舞」を披露した。東京藝術大学音楽学部の演奏も入り楽しいレセプションであった。



祝い舞

シリーズ日本の伝統②

民族舞踊の魅力

11月2日（日）午後2時から神奈川県民ホール小ホールにおいて神奈川舞台芸術講座

「民族舞踊の魅力」

三隅治雄先生を講師にお招きし、大野晃神奈川県民ホール館長の司会で進行する。

プログラムは渋谷和生氏を中心とする津軽民舞社中と琉球舞踊の志田真木先生のグループ並びに黛民族舞踊団の三団体によって構成された。

オープニングは「津軽の響き」で渋谷和生氏の津軽三味線ではじまり、曲目の要所々々で大野館長との対談式で三隅先生の解説が入る。

津軽よされ節 伊藤かさ子

黒田節 黛 琉美

祝い舞 平出 圭 伊藤みつ子 五月女舞穂
宇野あかり 田母神裕子

小原木 黛 琉美 伊藤みつ子
五月女舞穂

加那ヨー 志田 真木

四つ竹 島袋小百合 津山真由美
前田 恵 土屋奈奈
吉田恵美子 奥津澄江

津軽三味線の演奏 渋谷 和生

津軽山屋節

越中おわら

男 黛 智英 平出 圭 伊藤みつ子

女 黛 莉香 五月女舞穂

琉球舞踊の谷茶前

男 島袋小百合 前田 恵 土屋 奈奈

女 浦山真由美 吉田恵美子 浦山佳菜恵

津軽あいや節 伊藤かさ子 斎藤まりあ

かつぱれ 黛 琉美

花笠踊り 黛民族舞踊団全員

琉球舞踊 志田 真木 波照間永子

津浪 ありさ

タンダバハダンスカンパニー 2009年公演

- 第一部 言葉と音楽の歴史をたどって踊る
第二部 大人が読んだおとぎ話「浦島太郎」
第三部 踊りたい、若者の広場「現代舞踊」

公演の第二部「浦島太郎」の中で、海辺に遊ぶ女の子が踊る琉球舞踊『阿里屋ユンタ』は黛民族舞踊団の黛琉美・黛莉香・五月女舞穂が振付指導した。

浦島にたわむれる女の子はこの踊りを上手に踊った。



タンダバハダンスカンパニー公演



「民族舞踊の魅力」出演者
神奈川県民ホール

アジアに花咲く“舞踊”の教育システム

日本大学教授 丸茂 美恵子

私とアジアの舞踊との出会いは1998年に韓国国立国楽院が主催した国際シンポジウムに参加し、日本舞踊の精神について発表したことに始まる。この出会いは私には衝撃的で、アジアの舞踊に共通する精神性を認識したばかりでなく、お互いの交流を深める絶好の機会となった。

その後、私は2000年度前半を勤務先の海外派遣研究員としてソウルで過ごし、その間韓国芸術総合学校の舞踊院で教鞭を執る傍ら、韓国内の主な舞踊教育機関の視察を行い、アジアの舞踊教育への関心を募らせた。今日の私のアジアの舞踊に関する基本的な考えはこれらの経験が拠り所になっている。

そして今、私はNANAプロジェクトを立ち上げ研究活動を続けている。このNANAとは日本大学芸術学部の「NU Art」と日本舞踊とアジアの舞踊の「Nichibu & Asian dance」の頭文字。2005年度に文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業の選定を受け、研究テーマは日本舞踊の教育システム（Education & Training）の基盤研究に置くが、国際化の今日に合わせアジアを視野に入れている。

ここでは、NANAプロジェクトの視察で実際にこの目で見てきた、アジアの教育システムの側面について一部を紹介したい。

伝承危機の芸能を教育の中に－台湾戯曲専科学校

台湾戯曲専科学校は京劇科・綜芸舞蹈(雑伎)科・伝統音楽科・歌仔戲科・劇場芸術科・客家戲科に分かれているが、中でも民間の芸人が高齢化のため技芸の伝承が危機にある客家戲（客家民族に伝わる茶摘みの情景を題材にした伝統芸能。茶摘み歌のレパートリーも多くある。）を正規の教育に組み入れた客家戲科の設置に私は注目している。日本でも今後、学校教育に日本の伝統舞踊を取り入れて振興や継承を図っていかねばならない方法を考えることが必要になるかもしれないが、客家戲に対する台湾の施策はアジアで見つけたその好例となろう。[2005年5月視察]



中国戯曲学院 「秋江」花旦役の授業

指導者と舞台人とに分けられた教育－中国戯曲学院

中国戯曲学院は表演系・導演（演出）系・音楽・戲文系・舞美系の各学科他から成っている。その中の表演系は京劇の指導者を目指す学生と俳優を目指す学生とにクラスを分けている。とりわけ俳優を目指す学生の授業は「秋江」の花旦役とか「戦金山」の武旦役とか演目の役ごとにクラスがあり、1クラスは選り抜かれた3名だけ。男女とも容姿が端麗で技術も優秀だが、最終的には1名に絞られる。日本舞踊でも師匠になるための教育や舞踊家になるための教育など目的に見合った指導法が好ましいと私も思うのだが、卒業後に舞台人として活躍できる点では中国は日本より一歩進んでいよう。[2006年9月視察]



台湾戯曲専科学校 客家戲の継承
(台湾戯曲専科学校パンフレットより)



NANAプロジェクト 日韓シンポジウム レクチャーデモンストレーションのメンバー
左から西川箕乃助氏、一人おいて花柳寿美氏、金末愛氏、二人おいて筆者、梁性玉氏

王立と民間との舞踊教育の違いー王立プノンベン芸術学校とクメール芸術アカデミー

7、8年前にカンボジアの古典舞踊の復興に日本が積極的に関わっているという記事を読んでからカンボジアの舞踊に関心を抱いていたところ、ようやく昨年、視察が実現した。王立プノンベン芸術大学付属学校は舞踊・演劇・音楽・サーカスなど10の学科に分かれている。10年程前までは王宮の近くにあったが、現在は6 km離れただけの僻地にも等しい悪条件の地に移転していた。報道で報じられるカンボジアそのものの貧しさ……。王立の学校が舞踊を育む環境と言えないのとは対照的に、クメール芸術アカデミーというNGOでは宮廷舞踊の優雅さを失わない舞踊教育が実践されていた。[2008年12月視察]

さて今年1月末、NANAプロジェクトでは日韓シンポジウム「舞踊の教育システム：伝統の再編ー活用ー浸透」を開催した。9年前、私がソウル滞在の折に視察した慶熙大学校の金末愛教授、韓国芸術総合学校伝統芸術院の梁性玉教授を招聘した。奇遇にも、黛節子先生が1988年に訪韓された折に面会された慶熙大学校の金白峰先生（現・名誉教授）の後

継者が金末愛さん、韓国舞踊協会理事長の姜善泳先生（現・人間文化財）の後継者が梁性玉さんである。

一体、私をアジアに駆り立てるものはどこからくるのだろうか？ 私は20歳の頃に黛先生の舞踊への探求心に憧れ、琉球舞踊や民俗舞踊をお教えいただいたことがある。きっと黛先生の舞踊にかかる情熱が私とアジアの舞踊との邂逅を導いて下さったのかもしれない。



王立プノンベン芸術学校 キャンパスの光景

民族文化の会

学習院大学名誉教授で民族文化の会代表の諏訪春雄先生(当財団評議員)と当財団の大野晃常務理事との共催で毎月開かれている「民族文化の会」も、回を重ねるごとに民族舞踊を含む多方面の先生方のお話が勉強になり、

勉強するにあたって知識を得られる貴重な時をすごしている。

今年度は12回、すべて当財団4階黛アートサロンで開催された。日時、内容は次のとおり。

2008年

4月6日(日)	1 「浮世絵の表現—見立てと遠近法を中心に」 2 「日本の映画」 3 「雨林・ゴム園・茶園 —雲南西南山地民族の生態史」	学習院大学名誉教授 学習院大学名誉教授 東京外国語大学客員教授	諏訪春雄 中山昭彦 尹 紹亭
4月26日(土) 特別研究会	「聖徳太子伝説」 「天王寺屋の家狂言 聖徳太子」 歌舞伎俳優 中村富十郎	東京大学大学院博士課程在学 学習院大学名誉教授	宇野瑞木 諏訪春雄
5月17日(土)	1 「呪文」と現代図像 2 「神々の闘争—「八犬伝」の読み方—」 3 「私の「八犬伝」浮世絵」	コピーライター 学習院大学名誉教授 同胞大学教授	かとうさちこ 諏訪春雄 中村生雄
6月8日(日)	1 「アンデスの動物供儀」 2 「供儀の祭りと日本演劇」 3 「日本の供儀」	比較文明史研究 学習院大学名誉教授 学習院大学名誉教授	下野 泉 諏訪春雄 中村生雄
7月13日(日)	1 共同討議「日本の家族」 2 シンポジウム 「中国元宵節と日本の小正月—死生観の比較研究」	(コメンテーター) 播磨隆俊 学習院大学名誉教授	下野泉 白石広子 諏訪春雄
9月7日(日)	1 「3語で解く日本人論」 2 「紙を使った数楽」	学習院大学名誉教授 東海大学教授	諏訪春雄 大矢建正
10月10日(金)	1 「日本人の死者の行方—仏教以前—」 2 「日本人の死者の行方—仏教以後—」	学習院大学名誉教授 学習院大学名誉教授	諏訪春雄 諏訪春雄
11月4日(日)	1 「歌舞伎役者の死絵」 2 「日本の幽霊・中国の幽霊」	学習院大学講師 学習院大学名誉教授	藤澤 茜 諏訪春雄
12月7日(日)	1 「沖縄の巫女—久高島の神女—」 2 「キカイガシマー綾ハベル(美しい蝶)」	学習院大学名誉教授 法政大学講師	諏訪春雄 福 寛美

2009年

1月11日(日)	1 「伊勢神宮と出雲大社—古代日本の宗教統制—」 2 「ドラマの決着をつける女たち」	学習院大学名誉教授 京都造形芸術大学教授	諏訪春雄 田口章子
2月15日(日)	1 「源氏物語のパロディー—修紫田舎源氏」 2 「能・歌舞伎の特色と日本文化」	学習院職員 学習院大学名誉教授	木下聡子 諏訪春雄
3月8日(日)	1 「日本語の特色と日本文化」 2 「人間観と国家観—西洋政治思想史の事例から」	学習院大学名誉教授 学習院大学名誉教授	諏訪春雄 諏訪春雄



クメール芸術アカデミー 練習後の先生と生徒

財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます次第です。

民族舞踊文化 No. 21 2009年5月11日発行
〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL 03-3583-3633(代)
FAX 03-3583-3639

発行人 犬丸 直 編集人 大野 晃
財団法人黛民族舞踊文化財団

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAK, MINATOKU, TOKYO